

# 在日コリアンを知る 京都・大阪研修

2019年7月26(金)～28日(日) 応募締切：7月11日(水)

応募・問合せ：IHS・教育プロジェクトH：project-h@ihs.c.u-tokyo.ac.jp



今日、日本社会の目指すべき方向として「多文化共生」の語がよく用いられるようになりました。この言葉はもともと、自分たちが受け継いできた文化やアイデンティティを大切にしながら、日本で暮らし続けたいという主張をかかげた在日コリアンの権利闘争のなかで使われるようになったものです。今回の京都、大阪研修では、そうした「多文化共生」を掲げた在日コリアンの活動や生活の実践の場、文化施設等を訪ねます。

左上：「オモニの歌。住民はなぜウトロに住み続けたいか、「ウトロのオモニ(お母さん)の歌」をみんなで作った。 左下：朝鮮人飯場の中。飯場が作られたのは1943年頃。戦後、行き場のない人々はバラックの中で貧困生活に耐えた。 中：ウトロ表の看板。 右上：「多文化共生看板」。周囲の状況が好転し看板も希望が持てるものに。 右下左：新しい宇治市市営住宅。40戸の代替え住宅ができた。以上、撮影：中山和弘氏。 右下右：大阪猪飼野のセツパラム文庫。